令和６年度
上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました

令和6年7月24日（水）上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会（以下、協議会という。）を開催し、令和5年度の活動報告及び令和6年度の取組方針について、14人の委員の皆さんと意見交換を行いました。

委員からは、各職能団体の視点で専門部会の取組だけではなく、医療と介護の連携に関して幅広い意見が出ました。

◆意見等

○専門部会の取組が、“ケアマネジャーを対象に研修会を開催する”という流れになっている。ケアマネジャーを他の職種がどのように支援していくのか考えるのも大事だが、医療側が介護側にどのように寄り添っていくべきかの視点も含め検討してほしい。

○入退院時連携推進部会が実施したアンケート結果では、ケアマネジャーは医療との連携は必要だと考えているが、医療機関への連絡に躊躇している人が多かった。ケアマネジャーは医療職と関わる機会が少ないことから、苦手意識を持っているのではないか。医療職と意見交換ができる場があれば、連携が取りやすくなると思う。

○大変良い取組をしているが、それを知らない医師や専門職が多いと思う。周知方法の工夫等、広報活動の不足が課題ではないか。

○病棟看護師は、患者の退院後の生活までイメージができていない。在宅生活のイメージを持ちながらケアを行うことができればよいと考える。

○入退院時連携推進部会では、これまで入退院時の連携フロー図やガイドライン等のシステムを作ってきている。そのような経緯があり、今回はかかりつけ医とケアマネジャーの連携に着目したものと考えられるが、看護師は人事異動で交代するため、現行システムの確認や医療側と介護側の話し合いの場は何度あっても良いと思う。

○在宅医療・介護における連携のモチベーションを高めるためにも、定期的に多職種で話し合う機会を構築していくことはよいと思う。

○システムやツールを活用する際、それを使う意義や必要性等の思いの共有が大事である。

○近年、急性期や回復期病院から直接特別養護老人ホームへ入所する人が増えている。そのような中、終末期をどのように迎えたいかを考えるACPについて、家族の理解が進んでいないと感じている。市民啓発部会が作成したリーフレットを活用したい。

○病院内の職員で「もしばなゲーム」を行い、ACPの理解・推進に向けた取組を進めている。市民へのACPの普及を期待している。

○本人、家族が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療及び介護の現場において、それぞれがどのような課題を抱え、どのような取組をしているのか、互いに共有することが必要である。

＜事務局より＞

○専門部会におけるそれぞれの取組について、地域に対する広報活動の他、医療や介護の関係機関においては、連携ツールの活用や現在あるシステムの定着が大事であるということを改めて感じました。

○今回いただいた意見を専門部会でも共有し、今後どのように発展させていくのか、それぞれの立場でできることを一緒に検討していきます。

令和5年度の専門部会は、3 期目の初年度であったため、どの部会も部会員同士の関係性を深め、地域の現状や課題を共有する１年であったと感じています。

R6 年度は、前年度の取組を踏まえ、より具体的な活動を行っていきます。